

巻 頭 言

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2023年度はコロナによる行動制限が解除され、ようやく日常が取り戻された年となりました。社会活動がすっかり平常に戻り、われわれ色材協会の研究発表会にも多くの方にご参加いただきました。例年よりも開催時期が遅めではありましたが11月7日、8日の両日、大阪大学コンベンションセンターにて行われ、参加者160名、口頭発表46件、ポスター発表42件とたいへん盛況のうちに終了することができました。対面での研究発表会は一昨年の95周年国際会議にてすでに行われておりましたが懇親会は4年ぶりで、当初はどの程度集まっていたのか不安でしたが、68名と研究発表会同様多くの方にご参加いただき、久しぶりに懇親を深められたと喜んでおります。研究発表会ならびに懇親会にご参加された皆様方にはあらためてお礼を申し上げます。



2024年度はまた関東に場所を移しお台場の都立産業技術研究センターの会場をお借りして、共同開催させていただく予定です。今年もまた多くの皆様にご参加いただき、活発な議論をいただけますようお願い申し上げます。

昨年は気候変動も激しい1年でした。夏の記録的猛暑が秋まで続いたかと思えば一気に冬に突入してしまい、体調を崩された方も多かったのではないかと思います。その影響は自然界にもおよび農作物や水産物にもいつもにない変調を起こしていると思います。次第に生活環境が変化してしまっていることを身にしみて感じた年でもありました。

環境への配慮はもはやすべての人が実感することだと思います。企業活動においてもプラスチックごみ問題や脱炭素問題など、ますます避けては通れません。色材協会の研究発表会でも色材を軸としつつも最近ではエネルギー問題やカーボンニュートラルといった課題にまで、研究のすそ野は確実に広がっております。色材の世界におられる皆様からもぜひまた異分野の方をお誘いいただき、ますます学術のネットワークが広がることを祈念しております。

またコロナを経験したことでわれわれはますますデジタル化を身近なものにしました。日本人は従来ともすれば相手のところに出向かなければ失礼という感覚をもっていたかもしれませんが、もはやWeb会議は当たり前で移動時間の節約もさることながら、アポイントメントの手軽さも相まってすっかり当たり前のことになりました。ご好評いただいている基礎講座など当協会の講座や講演会もWebを積極的に取り入れて、遠方の方にもより多くご参加いただけるようになりました。しかし講師と直接会話ができる、名刺交換ができる、場合によっては講演会後に簡単な懇親会も開催できるなど、久しぶりに開催できるようになった会場での対面講座ならではの良さも喜ばれております。両方の良さを活かしつつ今後も、皆様に喜ばれるような企画をますます増やしていきたいと思っております。ぜひご期待いただくとともに、協会運営にも多くご要望をいただければ幸いです。

最後に皆様方のますますのご発展・ご健勝を祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

一般社団法人色材協会
副会長 浅田匡彦